

チベット訳『仏頂尊勝陀羅尼經』校合テキストおよび和訳（1）

佐々木大樹

1 はじめに

仏頂尊勝陀羅尼とは、仏の頂上肉髻の徳を讃える聖言であり、7世紀頃より中央～東アジアにおいて広く流布した。この陀羅尼を含む『仏頂尊勝陀羅尼經』は、9世紀頃よりチベットにも伝えられ、チベット大藏經には以下の5種類の經典が収蔵されている。

《チベット大藏經中の5種の『仏頂尊勝陀羅尼經』》

① དེ་བཞིན་གསེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་རྟོག་པ་དང་བཅས་པ

Chos kyi sde · Ba ri

一切如来の仏頂尊勝と名づける陀羅尼ならびに儀軌

② དེ་བཞིན་གསེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་རྟོག་པ་དང་བཅས་པ

一切如来の仏頂尊勝と名づける陀羅尼ならびに儀軌

③ དེ་བཞིན་གསེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་རྟོག་པ་དང་བཅས་པ

一切如来の仏頂尊勝と名づける陀羅尼ならびに儀軌

④ འཕགས་པ་དང་འགྲོ་ཐམས་ཅད་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བ་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་

Jinamitra · Surendrabodhi · Ye ses sde

聖一切悪趣を浄化する仏頂尊勝と名づける陀羅尼

⑤ དེ་བཞིན་གསེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་གཙུག་ཏྱར་རྣམ་པར་རྒྱལ་མའི་གཟུངས་ཞེས་  
བྱ་བའི་རྟོག་པ

Neḥu mkhan po • Ni ma rgyal mtshan

一切如来の仏頂尊勝母と名づける陀羅尼ならびに儀軌

《チベット大蔵経『仏頂尊勝陀羅尼経』の対照表<sup>1)</sup>》

	①	②	③	④	⑤
D	594	595	596	<b>597</b>	598
P	199	197	201	<b>198</b>	200
N	511	509	513	<b>510</b>	512
C	204	202	206	<b>203</b>	205
H	538	536	540	<b>537</b>	539
U	595	596	597	<b>598</b>	599
S	548	550	552	<b>549</b>	541
L	442	440	----	<b>441</b>	443
Ph	----	630	----	<b>631</b>	632
T	545	543	547	<b>544</b>	546

『仏頂尊勝陀羅尼経』には、大別して7世紀頃までと推定される《仏→善住天子》タイプのもので、9～10世紀頃と推定される《無量寿→觀自在》タイプの2種が現存している。

上記5種のうち、チベット訳④は《仏→善住天子》という古いタイプに属し、680～690年頃の漢訳『仏頂尊勝陀羅尼経』の

<sup>1)</sup> 本対照表は以下のリストなどを参照して作成した。

The Nyingma Edition of the sDe-dge bKa'-gyur/bsTan-'gyur  
(Research Catalogue and Bibliography) Vol.2 Teks 360-1108  
Der Tantric-Katalog des Bu ston im Vergleich mit der Abteilung  
Tantra des tibetischen Kanjur, INDICA ET TIBETICA VERLAG  
BONN 1989

諸訳と対応することから、中国・日本における仏頂尊勝陀羅尼信仰を考えるうえで看過できない位置にある。

チベットへの伝来においても、チベット訳④は、824年頃の編纂と推定される『デンカルマ目録』に収録されることから、インドからチベットへの前伝期・古訳に属する唯一の『仏頂尊勝陀羅尼經』と考えられる<sup>2</sup>。

チベット訳①も《仏→善住天子》の記事を含むが、《無量寿→觀自在》と折衷した内容であることから、後代およそ9-10世紀以降、おそらくチベットにおいて編纂された經典と判断される。チベット訳①は、内容的に一貫しない等の問題があるものの、チベット訳④に欠落する古い記述を含むことから、チベット訳④を補うものとして重要である。

また1998年に、このチベット訳④とも深く関わるサンスクリット写本（滋賀県 MIHO MUSEUM 所蔵）が、アフガニスタン・バーミヤンから発見され注目を集めている。この写本は、ギルギット・バーミヤン I 型文字によることから7世紀頃に遡

<sup>2</sup>芳村修基 [1974] 参照。『デンカルマ目録』には、འཕགས་པ་དན་འགྲོ་ཐམས་ཅད་རྣམ་པར་སྤྱོད་བ་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ (№348: śloka.120) という名称が見られ、チベット訳④と推定される。また9世紀後半の成立とされる『パンタンマ目録』 p.23 には、འཕགས་པ་གཙུག་ཏྲོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བའི་གཟུངས་ཚོ་ག་དང་བསམ་པ་ (śloka.120) の名が記載される。その詳細は不明であるが、シュローカ数は『デンカルマ目録』のものと一致しており、これもチベット訳④と推定される。

る写本と推定されており<sup>3</sup>、アジアにおいて広くこの陀羅尼が流布しはじめた時期に相当しており重要である。この写本にもとづき、すでに Gudrun Melzer [2007] においてローマ字転写と暫定的なテキストが発表され、これを踏まえて畝部俊也 [2015] において梵蔵漢資料の対照研究が発表されたことは大変喜ばしいことである<sup>4</sup>。

本稿では、参照可能なチベット大蔵経の版本・写本を集めて校合し、諸漢訳およびサンスクリット写本と対照しながら、《仏→善住天子》という古いタイプに属するチベット訳④のテキストの確定を試みたいと思う<sup>5</sup>。これによって従来の諸漢訳の研究、さらに新出サンスクリット写本の研究を補完し、仏頂尊勝陀羅尼信仰の始原の解明に資することができれば幸いである<sup>6</sup>。

---

<sup>3</sup> 新出のサンスクリット写本の来歴、書誌情報などについては、Gudrun Melzer [2007] および畝部俊也 [2015] に詳しい。

<sup>4</sup> 畝部俊也 [2015] では、新出写本に関する大乘経典の平行記述を探し、写本損傷部分のテキストの復元を試みている。

<sup>5</sup> 論者は過去に博士論文（拙論 [2008]）においてチベット訳『仏頂尊勝陀羅尼経』の和訳を行ったが、その際にはデルゲ版、北京版しか参照しえなかった。またサンスクリット写本を研究した畝部俊也 [2015] でも同様の2版のみであったようである。今回、チベット訳④の諸版を比較対照したところ、重要と判断される異読が確認されたため、本稿にて諸版の校合を試みた次第である。

<sup>6</sup> 新出サンスクリット写本を機縁として、故畝部俊也先生から仏頂尊勝陀羅尼の研究について様々な助言と支援とを頂いた。貴先生からの学恩に心より感謝し、謹んでご冥福を祈念申し上げたい。

## 2 『仏頂尊勝陀羅尼經』のシノプシス (synopsis)

今後の梵藏漢資料の対照研究を視野に入れて、本經の内容を便宜上、14のセクションに分けた。本稿では、本經の冒頭から仏頂尊勝陀羅尼、すなわち§0から§6までを扱い、次号以降に継続して校合テキストの完成を目指したい。

- § 0 經題
- § 1 仏集会の場（六成就） ※チベット訳①④およびサンスクリット写本にない。
- § 2.1 三十三天で享樂に耽る善住天子
- § 2.2 善住天子が聞いた不思議な声
- § 3.1 帝釈天に相談する善住天子
- § 3.2 帝釈天によって示された救済の手立て
- § 4.1 世尊のもとを往詣する帝釈天
- § 4.2 仏頂からの放光
- § 5.1 仏頂尊勝という名の陀羅尼
- § 5.2 仏頂尊勝陀羅尼を説くことの要請
- § 6 仏頂尊勝陀羅尼の説示
- § 7.1 仏頂尊勝陀羅尼の功德と由来
- § 7.2 仏頂尊勝陀羅尼の委嘱
- § 8 仏頂尊勝陀羅尼がもたらす諸功德
- § 9 摩尼に喩えられる陀羅尼と衆生の本質
- § 10.1 仏頂尊勝陀羅尼の実践
- § 10.2 仏頂尊勝陀羅尼を幢や仏塔に安置する功德
- § 11 閻魔法王の来訪と衆生守護の誓い

- § 12.1 四天王の来訪と修行法の要請
- § 12.2 世尊による仏頂尊勝陀羅尼の修行法の説示
- § 12.3 仏頂尊勝陀羅尼による土砂加持
- § 12.4 仏頂尊勝陀羅尼の読誦と極楽往生
- § 12.5 結印と造壇法 ※チベット訳①にはあるが④にない。
- § 13.1 善住天子を救いうる仏頂尊勝陀羅尼
- § 13.2 仏頂尊勝陀羅尼によって救われた善住天子
- § 14.1 善住天子による供養 ※チベット訳①にはあるが④にない。
- § 14.2 世尊による摩頂授記 ※チベット訳①にはあるが④にない。

### 3 『仏頂尊勝陀羅尼経』の校合資料と凡例

チベット訳④の校合に用いるチベット大蔵経の諸版・諸写本は、デルゲ版 (Derge) ・北京版 (Peking) ・ナルタン版 (Narthang) ・チョーネ版 (Cone) ・ラサ版 (Lhasa、ウルガ版 (Urga) ・トクパレス版 (Stog Palace) ・シェルカル写本 (Śel dkar) ・プダック写本 (Phug Brag) ・東京写本 (Tokyo) の 10 種である。

D : Derge (sDe-dge) ed, Toh. 597,rgyud, vol.pha.243v1- 248r3

P : Peking.ed, Ota.198 ,rgyud, vol.pha. 226v5-231v3

N : Narthang.ed, No.510,rgyud, vol.pa. 188v4-195v1

C : Cone ed, No.203,rgyud, vol.pha. 251r4-256v8

H : Lhasa ed, No.,rgyud, vol.537,na. 211v4-218v4

U : Urga ed, No.598,rgyud, vol.pha. 243v1-248r3

S : sTog-Palace ms, No.549,rgyud, vol.pa. 203v4-210r2

L : London (Śel dkar) ms, No.441,rgyud, vol.pa. 197r3-203r2

Ph : Phug-Brag ed, No.631,rgyud, vol.dza. 224r3-230v3

T : Tokyo ms, No.544,rgyud, vol.pa. 195r7-201r4

なおチベット訳④には、前のシノプシスの割注で示したとおり、サンスクリット写本、対応漢訳と見比べて欠落している記述がある。本稿では畝部俊也〔2015〕にならい、他資料によることを明示したうえで、チベット訳①諸版を校合して欠落箇所を補いたいと考えている。

次にチベット訳④のテキスト確定において、主に参照した資料を示すと以下である。

《サンスクリット語資料》

*Sarvagatipariśodhana-uṣṇīṣavijayā nāma dhāraṇī*

(MIHO MUSEUM 所蔵)

一切趣清浄仏頂尊勝母と名づける陀羅尼

《漢訳資料<sup>7)</sup>》

杜行顛訳『仏頂尊勝陀羅尼經』（大正No.968）

地婆訶羅訳『仏頂最勝陀羅尼經』（大正No.969）

仏陀波利訳『仏頂尊勝陀羅尼經』（大正No.967）

---

<sup>7)</sup> 『仏頂尊勝陀羅尼經』の成立および漢訳状況については、拙論〔2007a〕〔2007c〕など参照。

地婆訶羅訳『最勝仏頂陀羅尼浄除業障呪経』（大正No.970）

義浄訳『仏説仏頂尊勝陀羅尼経』（大正No.971）

サンスクリット写本、漢訳諸訳を参照しながら、チベット大蔵経の諸版・諸写本を校合して、より妥当と判断された読みを採用しながら以下、チベット訳④本文テキストを作成してゆくこととした。その本文テキストには、チベット大蔵経の諸版・諸写本の位置が分かるように、（D 243v1）などの形で情報を補った。なお本文テキストの作成にあたり、高松宏寶（クンチョック・シタル）師に種々にご助言いただいたことを記し御礼申し上げます。

本文テキストの異読については、脚注においてDPNCHUSL Ph Tの順に明示したが、写本特有の省略表記は異読とせず、正規表記の読みに区分した。

省略表記の例：འགྲུར་ (འགྲུར་རྩི) རྩོད་ (སྐྱེས་ཅན་) བཅོམ་ (བཅོམ་ལྡན་འདས་) など

またチベット大蔵経の諸版・諸写本を見比べて単語や文章が無い場合には、n.e. (not existent) として示すこととした。

本稿では、この本文テキストに続いて和訳（試訳）を付したが、重要な単語については適宜、サンスクリット写本にもとづく梵語を（ ）で補うこととした。

《主要参考文献》

- Gudrun Melzer [2007] , The Gilgit Manuscript of the Sarvagatipari-  
śodhanauṣṇīṣavijayā kept in the Miho Museum (松田和信『平山郁夫  
コレクションのアフガニスタン・パキスタン出土仏教写本研究』)
- Helmut Eimer [1993] Location list for the texts in the microfiche  
edition of the Phug brag Kanjur : compiled from the microfiche edition  
and Jampa Samten's descriptive catalogue (国際仏教大学院大学)
- Tadeusz Skorupski [1985] A catalogue of the Stog Palace Kanjur.  
( International Institute for Buddhist Studies )
- Ulrich Pagel & Séan Gaffney [1996] Location list to the texts in the  
microfiche edition of the Śel dkar (London) Manuscript bKa' 'gyur  
(Or.6724) : compiled from the microfiche edition in conjunction with  
the original Tibetan manuscript. ( The British Library )
- 西藏博物館 [2003] དཀར་ཆག་འཕང་ཐང་མ། ལྷ་འབྲུང་བམ་པོ་གཉིས་པ།  
(北京・民族出版社、西藏博物館古籍叢書1)
- 畝部俊也 [2015] 「梵文『仏頂尊勝陀羅尼經』と諸訳の対照研究」  
(『名古屋大学文学部研究論集』哲学61)
- 川越英真 [2005] 『dKar chag 'Phang thang ma』  
(東北インド・チベット研究会)
- 教学研究委員会 [2005]  
「「仏頂尊勝陀羅尼」の効能—仏陀波利訳『仏頂尊勝陀羅尼  
經』・訳注—」 (『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』3)
- 郭麗英 [2007] 「仏頂尊勝陀羅尼の伝播と儀式」

- (『天台学報』特別号)
- 齋藤光純 [1977] 「河口慧海師将来東洋文庫所蔵 写本チベット大蔵經調査備忘」 (『大正大学研究紀要 仏教学部・文学部』63)
- 佐々木大樹 [2007a] 「『仏頂尊勝陀羅尼經』の研究」  
(『智山学報』56)
- 佐々木大樹 [2007b] 「尊勝陀羅尼分類考」  
(『大正大学綜合仏教研究所年報』29)
- 佐々木大樹 [佐々木 2007c] 「尊勝陀羅尼成立考」  
(『加藤精一先生古稀記念論文集 真言密教と日本文化』)
- 佐々木大樹 [2008] 『仏頂尊勝陀羅尼の研究』  
(博士論文、大正大学)
- 佐々木大樹 [2011] 「仏頂尊勝陀羅尼の因縁譚をめぐる一考察—特に『悪趣清浄タントラ』との関係をめぐって—」  
(『密教学研究』43)
- 佐々木大樹 [2016] 「土砂加持原典考—仏頂尊勝陀羅尼の関連資料を中心に—」 (『密教学研究』48)
- 那須政隆 [1952] 「仏頂尊勝陀羅尼經の翻訳について」 (『大正大学学報』38)
- 干潟龍祥 [1939] 「仏頂尊勝陀羅尼經諸伝の研究」  
(『密教研究』68)
- 芳村修基 [1974] 「デンカルマ目録の研究」  
(『インド大乘仏教思想研究—カマラシーラ of 思想—』)

TEXT

D 243v1; P 226v5; N188v4; C251r4; H 211v4; U 243v1; S 203v4;  
L 197r3; Ph 224r3; T 195r7

§ 0 経題

||ॐॐ||ཀླག་རྒྱུ་སྐད་དུ།ལྷ་ཅུ་ས་ཅ་<sup>1</sup>དུ་ཀ་ཉི་པ་རི་ཤོ་རྣ་ནི་ལྷ་རྒྱུ་ཁྱེ་ཏུ་བོ་ཇ་ཡ་རྣ་མ་  
རྣུ་ར་རྩེ་<sup>2</sup>།བོད་སྐད་དུ།འཕགས་པ་<sup>3</sup>ངན་འགྲོ་ཐམས་ཅད་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བ་གཙུག་  
ཉོར་རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་གནུངས།  
།སངས་རྒྱས་དང་བྱང་ལྷན་སེམས་དཔའ་ཐམས་ཅད་ལ་ལྷག་འཚལ་ལོ།

【試訳】 インド語で *Ārya-sarva-durgati-pariśodhāni-uṣṇīṣa-vijaya-nāma-dhāraṇī* という。チベット語で『聖なる一切の悪趣を完全に浄化する仏頂尊勝と名づける陀羅尼』という。一切の仏と菩薩に敬礼し奉る。

§ 1 仏集会の場（六成就）

※漢訳五本には、序文として六成就が共通して説かれるが、ギルギットで発見されたサンスクリット写本、および本論考で主題とするチベット訳では欠落している。干潟龍祥 [1939]、那須政隆 [1952] がすでに指摘するとおり、漢訳の六成就には下

---

<sup>1</sup>ས་ཅ་ 』 DPNCU Ph ; ས་རྩེ་ HSLT  
<sup>2</sup>རྩེ་ 』 DNCULT ; རི་ PHS ; རི་ Ph  
<sup>3</sup>འཕགས་པ་ 』 DPCHUS Ph T ; འཕག་པ་ N L

記のごとく二種類の系統があり、それぞれの差異も著しいことから、漢訳時に大幅な手入れがあった可能性が想定される。

①比丘千二百五十人・菩薩一万二千人の系統

仏陀波利訳（大正№967） 義浄訳（大正№971）

②比丘八千人・菩薩三万二千人の系統

杜行顛訳（大正№968） 地婆訶羅訳（大正№969・970）

さらに梵蔵資料に六成就が無い事実に注目すれば、畝部俊也 [2015] の指摘のように経典としての形式を整えるため、原本に無い六成就の記述が付け加えられた可能性も考えられる。

## § 2.1 三十三天で享樂に耽る善住天子

དེ་ནས་ལྷའི་བྱ་ཤིན་ཏུ་བརྟན་པ་ཞེས་བྱ་བ་ཞིག་སྲུང་(T f.195v)ཅུ་ཚུ་གསུམ་གྱི་<sup>4</sup>ལྷ་  
རྣམས་གྱི་ནང་<sup>5</sup>ཚོས་བཟངས་<sup>6</sup>ལྷའི་འདུན་ས་<sup>7</sup>ན་གནས་ཏེ།ལྷའི་གཞལ་ཡས་<sup>8</sup>ཁང་  
ཚེན་པོ་ན་ལྷའི་<sup>9</sup>ལོངས་སྤྱོད་ཚེན་པོ་དང།ལྷའི་བྱ་མའི་ཚོགས་ཚེན་པོས་བསྐོར་ནས་ཚེ་  
དགའ་ཞིང་དགའ་<sup>10</sup>མགུར་སྤྱོད་དེ།

<sup>4</sup> གསུམ་གྱི་ ] DPNCHUSLT ; གསུམ་པའི་ Ph

<sup>5</sup> ནང་ ] DPNCHUSLT ; ནང་ན་ Ph

<sup>6</sup> བཟང་ ] PNCHSLPhT ; བཟངས་ DU

<sup>7</sup> མདུན་ས་ ] PNCHLPhT ; འདུན་ས་ DS

<sup>8</sup> ཡས་ ] DPNCHUSLT ; མེད་ Ph

<sup>9</sup> ལྷའི་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>10</sup> ཞིང་དགའ་ ] DPNHUSLPhT ; n.e. C

【試訳】 その時に善住天子と呼ばれるものが、三十三の諸天中の善法天の会処に住み、天の大宮殿で大きな天の快樂と、多くの天女の集まりに囲まれて遊戯し、歡樂していた。

## § 2.2 善住天子が聞いた不思議な声

དེ་ལྟའི་<sup>11</sup>ལོངས་<sup>12</sup>སྤྱོད་སྤྱོད་བ་<sup>13</sup>ལས་<sup>14</sup>མཚན་མོ་སྐྱེ་ཞིག་ཐོས་པ་<sup>15</sup>། ལྟའི་བྱ་ཤིན་ཏུ་  
བརྟན་པ་ཞག་བདུན་གྱི་ཉེན་པར་(H f.212r) (N f.189r) འཆི་བའི་དུས་བྱེད་དེ་<sup>16</sup>དེ་  
འཆི་བའི་དུས་(S f.204r) བྱས་ནས་ཀྱང་འཇམ་བུའི་སྤྱིང་དུ་སྐྱེས་ཏེ་<sup>17</sup>དེར་<sup>18</sup>ཡང་  
འགོ་བ་བདུན་པོ་སྤྱོད་བར་འགྱུར་རོ། །འགོ་བ་བདུན་པོ་སྤྱོད་ནས་ཀྱང་<sup>19</sup>སེམས་(P  
f.227r) ཅན་དམུལ་བར་སྐྱེ་བར་<sup>20</sup>འགྱུར་རོ། །བརྒྱུ་ལ་ནམ་(C f.251v) ཞིག་མེར་སྐྱེས་  
(D f.244r) བར་<sup>21</sup>གྱུར་ན་ཡང་<sup>22</sup>དེར་དབུལ་པོར་འགྱུར་ཞིང་དམུལ་ལོང་དུ་<sup>23</sup>འགྱུར་  
རོ་ཞེས་དེས་<sup>24</sup>ཐོས་སོ།

<sup>11</sup> དེ་ལྟའི་ ] DNCHUSL Ph T ; ལྟའི་ P

<sup>12</sup> ལོངས་ ] DPNCHUS Ph T ; ལོང་ L

<sup>13</sup> སྤྱོད་བ་ ] DNCHUSL Ph T ; མེང་བ་ P

<sup>14</sup> ལས་ ] DPNCHUSLT ; Ph ལ་

<sup>15</sup> ཐོས་ནས་ ] Ph ; ཐོས་པ་ DPNCHUSLT

<sup>16</sup> བྱེད་དེ་ ] DPNHUSL Ph T ; བྱེད་དོ་ C

<sup>17</sup> སྐྱེས་ཏེ་ ] DPNCHUSLT ; སྐྱེ་ཏེ་ Ph

<sup>18</sup> དེར་ ] DNCHUSLT ; དེ་ P Ph

<sup>19</sup> སྤྱོད་ནས་ཀྱང་ ] Ph ; སྤྱོད་ནས་ DPNCHUSLT

<sup>20</sup> དམུལ་བར་སྐྱེ་བར་ ] DPNCHUSLT ; དམུལ་བ་སྤྱོད་བར་ Ph

<sup>21</sup> སྐྱེས་པར་ ] DPNCHUSLT ; སྐྱེ་བར་ Ph

【試訳】 彼は、天の娯楽を味わってから夜にある声を聞いた。「善住天子は、七日目に命終の時となる。彼は命終の時となつてからジャンブ洲（閻浮提）に生まれ、そこでさらに七度の生を受けるであろう。七度の生を受けてから地獄（naraka）に生まれるであろう。いつか百度で人に生まれるならば、そこで貧困となり、盲目となるであろう」と彼は聞いたのであった。

### § 3.1 帝釈天に相談する善住天子

(Ph f.224v) །དེ་ནས་སྣའི་བྱ་དེས་<sup>25</sup>སྣ་དེ་ཕོས་(L f.197v)ནས་འཇིགས་<sup>26</sup>སྣག་  
<sup>27</sup>དངངས་<sup>28</sup>ཉེ་སྤྱ་ཟིངས་<sup>29</sup>ཞེས་བྱེད་པར་གྱུར་ནས།དེ་<sup>30</sup>རིངས་པ་<sup>31</sup>རིངས་པར་  
<sup>32</sup>སྣའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་<sup>33</sup>ག་ལ་བ་དེར་སོང་སྟེ་བྱིན་ནས་<sup>34</sup>དེ་ནས་<sup>35</sup>སྣའི་དབང་པོ་

<sup>22</sup> ཡང་ ། DPNCHULPhT ; འང་ S

<sup>23</sup> འགྱུར་ཞིང་དམུས་ལོང་དུ་ ། DPNCHUSL ; གྱུར་ཞིང་སྤྱ་ལོང་དུ་ཡང་ Ph ; n.e. T

<sup>24</sup> དེས་ ། DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>25</sup> དེས་ ། DPNHUSLPhT ; དེ་ C

<sup>26</sup> འཇིགས་ ། DPCUSLPhT ; འཇིག་ NH

<sup>27</sup> སྣག་ ། DPCNHUSPhT ; སྣག་ L

<sup>28</sup> དངངས་ ། DCU ; སྣངས་ PNHSLPhT

<sup>29</sup> ཟིངས་ ། Ph ; ཟིང་ DPNCHUSLT

<sup>30</sup> དེ་ ། DPCUSPh ; དེས་ NHLT

<sup>31</sup> རིངས་པ་ ། DPNCHSLT ; n.e. U ; རིང་པ་ Ph

<sup>32</sup> རིངས་པར་ ། DPNCHUSLT ; རིང་པར་ Ph

<sup>33</sup> སྣའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་ ། DPNCHUSLT ; བརྒྱ་བྱིན་ Ph

བརྒྱུན་གྱི་རྒྱུ་རྒྱུ་ལ་མགོ་བོས་<sup>36</sup>ཕྱག་འཚལ་ཏེ<sup>37</sup> བརྟུགས་<sup>38</sup>པར་སྐྱེ་ཞིང་དེ་གྱི་  
 ཏུང་གྱི་ཏུང་ཅེས་སྐྱེ་ལྷགས་འདོན་བཞིན་དུ་ལྷའི་དབང་པོ་བརྒྱུ་བྱིན་ལ་འདི་རྒྱུང་  
 ཅེས་སྐྱེས་སོ།

【試訳】 その時に彼の天子は、その声を聞いて恐れおののき、  
 身の毛をよだたせ、大急ぎでインドラ天シャクラのもとへ進み  
 到着した。その時にインドラ天シャクラの御足を頂礼し、怖が  
 って声を挙げ、かの「ああ、ああ・・・」と悲歎しながらインドラ  
 天シャクラに次のように申し上げた。

ལྷའི་དབང་པོ་གསན་དུ་གསོལ་<sup>39</sup>ལྷའི་དབང་པོ་བདག་དེང་<sup>40</sup>ལྷའི་བྱ་མའི་ཚོགས་  
 གྱིས་བསྐྱར་<sup>41</sup>ཏེ་ལྷའི་ལོངས་སྤྱོད་གྱི་<sup>42</sup>དགའ་བ་<sup>43</sup>ཅེ་ཞིང་བདེ་བ་ལྷོང་བ་ལས་སྐྱེ་  
 རོས་པ་<sup>44</sup>།

<sup>34</sup> ལྱུན་ནས ། DPCNHUS Ph T ; n.e. L

<sup>35</sup> དེ་ནས ། DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>36</sup> རྒྱུ་རྒྱུ་ལ་མགོ་བོས་ (Skt. pādābhivandanam.) ། Ph ;

རྒྱུ་རྒྱུ་ལ་ DPNCHUSLT

<sup>37</sup> འཚལ་ཏེ་ ། DPCHUPh ; འཚལ་ NL ; ཕྱག་ཏེ་ S ; འཚལ་ལ་ T

<sup>38</sup> བརྟུགས་ ། DPNCHSLPh T ; བརྟུགས་ U

<sup>39</sup> ལྷའི་དབང་པོ་གསན་དུ་གསོལ་ ། DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>40</sup> དེང་ ། DNCHUSLT ; དང་ P ; n.e. Ph

<sup>41</sup> བསྐྱར་ ། DNCHUSLPh T ; རྐྱར་ P

<sup>42</sup> གྱིས་ ། Ph ; གྱི་ DPNCHUSLT

<sup>43</sup> དགའ་བ་ ། Ph ; དགའ་བས་ DPNCHUSLT

<sup>44</sup> རོས་པ་ ། DPNCHUSLT ; རོས་པས་ Ph

ལྷའི་བྱ་ཤིན་ཏུ་བདུན་པ་ཞག་བདུན་ན་འཆི་བའི་དུས་བྱེད་པར་འགྱུར་ཏེ།འཇོམ་  
 བྱའི་སྒྲིང་དུ་<sup>45</sup>སྐྱེ་བར་འགྱུར་རོ།།དེར་ཡང་<sup>46</sup>འགྲོ་བ་བདུན་<sup>47</sup>མྱོང་ནས་སེམས་ཅན་  
 དམུལ་བར་སྐྱེ་བར་འགྱུར་རོ།།བརྒྱུ་ལ་ནམ་ཞིག་མེད་སྐྱེས་(U f.244r) བར་<sup>48</sup>གྱུར་ན་  
 ཡང་<sup>49</sup>དེར་དེ་<sup>50</sup>དབུལ་པོར་འགྱུར་ཞིང་དམུས་ལོང་<sup>51</sup>དུ་ཡང་<sup>52</sup>འགྱུར་རོ་ཞེས་ཐོས་  
 ནས་<sup>53</sup>།(T f.196r)ལྷའི་དབང་པོ་དེལ་བདག་གིས་ཇི་ལྟར་བསྐྱབ་པར་བགྱི།

【試訳】 「インドラ天よ、聞いてください。インドラ天よ、  
 私が今日、天女の集まりに囲まれて、天の快樂によって遊戯し、  
 安樂を味わっていると、ある声を聞きました。

『善住天子は、七日目に命終の時となり、閻浮提に生まれる  
 であろう。そこで、さらに七度の生を受けてから、地獄に生ま  
 れるであろう。いつか百度で人に生まれるならば、そこで彼は  
 貧困となり、盲目となるであろう』と聞きました。インドラ天  
 よ、ここで私はどのようにすればいいでしょうか」。

<sup>45</sup> སྐྱེང་དུ་ 〕 DPNCHUSLT ; འད་དུ་ Ph

<sup>46</sup> དེར་ཡང་ 〕 DPNCHUL Ph ; དེར་ཡང་དེ་ S

<sup>47</sup> བདུན་ 〕 DPNCHUSLT ; བདུན་པོ་ Ph

<sup>48</sup> སྐྱེས་པར་ 〕 DPNCHUSLT ; སྐྱེ་བར་ Ph

<sup>49</sup> ཡང་ 〕 DPNCHULT ; འང་ S

<sup>50</sup> དེ་ 〕 DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>51</sup> དབུལ་པོར་ 〕 DPNCHUSLT ; ལྷུ་ལོང་ Ph

<sup>52</sup> ཡང་ 〕 DHU Ph ; n.e. PNCT ; འང་ S

<sup>53</sup> ནས་ 〕 CPh ; ན་ DPNHUSLT

## § 3.2 帝釈天によって示された救済の手立て

དེ་ནས་སྣའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་གྱིས་སྣའི་བྱ་(H f.212v)ཤིན་ཏུ་(N f.189v)བརྟན་  
 པའི་ཚོག་དེ་ཐོས་ནས་ཤིན་ཏུ་ངོ་མཚར་དུ་འཛིན་པར་གྱུར་<sup>54</sup>ཏེ།སྣའི་བྱ་འདིས་  
<sup>55</sup>འགྲོ་བ་བདུན་པོ་གང་དག་ཚྱོད་བར་འགྱུར་སྐྱམ་དུ་སེམས་ཤིང་སྐད་ཅིག་<sup>56</sup>ཅང་  
 མི་སྣུ་བར་<sup>57</sup>འདུག་(S f.204v)པ་<sup>58</sup>དང་འགྲོ་བ་བདུན་ནི་ཡག་གི་སྐྱེ་གནས་དང་བྱི་  
<sup>59</sup>དང་ལྷ་དང་སྤྲེལ་དང་<sup>60</sup>སྐྱུལ་གདུག་པ་དང་<sup>61</sup>བྱ་ཚོད་དང་བྱ་ལ་སྤྲེ་<sup>62</sup>འགྲོ་བ་བདུན་  
 པོ་དེ་དག་ཤིན་ཏུ་མི་གཙང་བ་<sup>63</sup>ཟ་བ་ཚྱོད་བར་འགྱུར་བ་<sup>64</sup>མཐོང་ངོ།

**【試訳】** その時にインドラ天は、善住天子の言葉を聞いてから大変驚き、かの天子は、どのような七度の生を受けるのかと考へて瞬時に沈黙して坐し、「七度の生とは、①豚 (sūkara) の生と、②犬 (śvāna) と、③キツネ (jambuka) と、④雌猿

<sup>54</sup> གྱུར་ ] DPNUS Ph T ; འགྱུར་ CHL

<sup>55</sup> འདིས་ ] DPNCHUSLT ; འདི་ཡིས་ Ph

<sup>56</sup> སྐད་ཅིག་(Skt.muhūrtam)] S Ph ; n.e. DPNCHULT

<sup>57</sup> ཅང་མི་སྣུ་བར་ ] DPCHUL Ph T ; ཅང་མི་སྣུ་བར་ S

<sup>58</sup> འདུག་པ་ ] DPNCHUSLT ; གྱུར་བ་ Ph

<sup>59</sup> བྱི་ ] DNCHUSL Ph T ; བྱི་ P

<sup>60</sup> སྤྲེ་བྱ་དང་ ] DPNCHUSLT ; སྤྲེ་བྱ་དང་སྤྲེ་བ་དང་ Ph

<sup>61</sup> སྐྱུལ་གདུག་པ་དང་ ] DPNCHUSLT ; སྐྱུལ་གདུག་པ་ཅན་དང་ Ph

<sup>62</sup> བྱ་ལ་སྤྲེ་ ] DPNCHUSLT ; བྱ་ལ་དག་སྤྲེ་ Ph

<sup>63</sup> གཙང་བ་ ] DNHUSL Ph T ; གཙང་བའི་ PC

<sup>64</sup> ཚྱོད་བར་འགྱུར་བ་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

(markaṭī) と、⑤毒蛇 (āśiṣa) と、⑥ワシ (gr̥dhra) と、⑦カラス (kāka) であり、これらの七度の生では、まさに不浄の食べ物を楽しむことになるであろう」と観じた。

།དེ་ནས་སྣའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་གྱིས་འགོ་བ་བདུན་པོ་དེ་དག་མཐོང་ནས་འདི་སྣམ་  
 དུ་ཨེ་མ་<sup>65</sup>སྣའི་བྱ་འདི་སྣུག་བཟུལ་<sup>66</sup>མི་བཟོད་པ་<sup>67</sup>ཆེན་པོ་སྣོད་བར་འགྱུར་ན་<sup>68</sup>(L  
 f.198r)དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་དགྲ་བཙམ་པ་<sup>69</sup>ཡང་དག་པར་(Ph f.225r) རྫོགས་  
 (C f.252r)པའི་<sup>70</sup>སངས་རྒྱས་མ་གཏོགས་པར་<sup>71</sup>དེའི་སྐབས་དང་རྟེན་དང་<sup>72</sup>དཔུང་  
 གཉེན་དུ་འགྱུར་བ་སྲུ་ཡོད་<sup>73</sup>སྣམ་དུ་<sup>74</sup>བསམས་སོ།

【試訳】 その時にインドラ天シャクラは、それら七度の生を  
 観じてから次のように考えて、「ああ、この天子が、抗いがた  
 い大きな苦痛を受けるのであれば、唯一、如来阿羅漢正等覺者

<sup>65</sup> ཨེ་མ་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>66</sup> སྣའི་བྱ་འདི་སྣུག་བཟུལ་ ] DPNCHUSLT ; སྣའི་སྣུག་བཟུལ་ Ph

<sup>67</sup> མི་བཟོད་པ་ ] HU ; མི་བཟོད་པ་ DPNCSL Ph T

<sup>68</sup> འགྱུར་ན་ ] DPNCHUSLT ; འགྱུར་རོ་ Ph

<sup>69</sup> དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་དགྲ་བཙམ་པ་ ] DPNCHUSLT ; དེ་ལ་དགྲ་བཙམ་པ་ Ph

<sup>70</sup> རྫོགས་པའི་ ] DNCHUSLT ; རྫོགས་ P

<sup>71</sup> གཏོགས་པར་ ] DPNCHUSLT ; ཏོགས་པར་ Ph

<sup>72</sup> རྟེན་དང་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>73</sup> འགྱུར་བ་སྲུ་ཡོད་ ] DPNCHUSLT ; འགོ་བ་གཞན་མེད་དོ་ Ph

<sup>74</sup> སྣམ་དུ་ ] DNCHUSL Ph ; སྣམ་ P

が、かの保護者となり、援護者となり、拠り所となるものである」と観念した。

#### § 4.1 世尊のもとを往詣する帝釈天

།དེ་ནས་ལྷ་འི་(P f.227v)དབང་པོ་བརྒྱ་ཕྱིན་རྒྱུ་ལོ་<sup>75</sup>དེའི་སྲོད་ལ་སྦྱོས་དང་<sup>76</sup>ཁེ་  
 ཏོག་དང་བདུག་པ་ལྷ་ཚོགས་དང་<sup>77</sup>ཤོས་དང་རྒྱན་ལྷ་ཚོགས་ལ་སོགས་པ་བྱེད་  
 བས།བཅོམ་ལྷན་འདས་ག་ལ་བ་དེར་སོང་སྟེ་<sup>78</sup>ཕྱིན་པ་དང་<sup>79</sup>བཅོམ་ལྷན་འདས་ཀྱི་  
 འབས་ལ་མགོ་བོས་བྱུག་འཚལ་ཏེ་ལན་བདུན་བསྐྱར་<sup>80</sup>བ་བྱས་ནས་མཚན་པ་ཆེན་པོ་  
 བྱས་<sup>81</sup>ཏེ།  
 བཅོམ་ལྷན་འདས་ཀྱི་སྤྱན་སྦྲར་འདུག་སྟེ་<sup>82</sup>ལྷ་འི་བྱ་ཤིན་ཏུ་བརྟན་པའི་འགོ་བ་  
 བདུན་པོ་དག་<sup>83</sup>བཅོམ་ལྷན་འདས་ལ་ཞིབ་ཏུ་གསོལ་ཏེ།

<sup>75</sup> རྒྱུ་ལོ་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>76</sup> སྦྱོས་དང་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>77</sup> བདུག་པ་ལྷ་ཚོགས་དང་ ] DPNCHUSLT ; བདུག་སྦྱོས་དང་ Ph

<sup>78</sup> སོང་སྟེ་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>79</sup> ཕྱིན་པ་དང་ ] DPNCHUSLPh ; ཕྱིན་ནས་ T

<sup>80</sup> བདུན་བསྐྱར་ ] DPNCHUSLPh ; བསྐྱར་ T

<sup>81</sup> བྱས་མཚན་པ་ཆེན་པོ་བྱས་ ] DCHUS ; n.e. PNL T ;  
 བྱ་མཚན་རྟན་པ་ཆེན་པོ་བྱས་ Ph

<sup>82</sup> སྟེ་ ] Ph ; བྱས་ DPNCHUSLT

<sup>83</sup> དག་ ] DPNCHUSLT ; འདི་ Ph

【試訳】 それからインドラ天シャクラは、初夜分に種々の御香と華と焼香と、様々な衣服と装飾品などを携えて世尊のもとへ進み到着し、世尊の御足を頂礼し、七匝右遶してから大供養を行い、世尊の御前に坐ってから、善住天子の七度の生について世尊にお尋ねした。

## § 4.2 仏頂からの放光

ལྷའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་གྱིས་<sup>84</sup>འགྲོ་བ་བདུན་པོ་<sup>85</sup>དེ་དག་<sup>86</sup>གསོལ་མ་ཐག་ཏུ།  
ནས་བཅོམ་ལྡན་འདས་གྱིས་<sup>87</sup>གཙུག་རྟོར་ནས་འོང་བེར་སྣ་(N f.190r)ཚོགས་བྱུང་  
<sup>88</sup>(H f.213r)སྟེ།དེས་<sup>89</sup>ཕྱགས་བརྩེ་འཇིག་རྟེན་གྱི་ཁམས་གྱི་གནས་ཐམས་ཅད་  
ཀུན་ནས་<sup>90</sup>སྣང་བར་བྱས་ཏེ་སྐར་ལོག་ནས་བཅོམ་ལྡན་འདས་(T f.196v)གྱི་ཞལ་གྱི་  
<sup>91</sup>སྐོར་ལྷགས་སོ་<sup>92</sup>།

<sup>84</sup> གྱིས་ ] DPNCHUSLT ; ལ་ Ph

<sup>85</sup> འགྲོ་བ་བདུན་པོ་ ] DCHUS ; འགྲོ་བ་ PNL T ; འདདུས་པ་ Ph

<sup>86</sup> དེ་དག་ ] DPNCHUSLT ; དེ་དག་གི་ Ph

<sup>87</sup> གྱིས་ ] Ph ; གྱི་ DPNCHUSL ; གྱི་ T

<sup>88</sup> བྱུང་ ] DPNCHUSLT ; བྱུང་ Ph

<sup>89</sup> དེས་ ] DPNCHUSLT ; དེ་ནས་ Ph

<sup>90</sup> ཀུན་ནས་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>91</sup> ཞལ་གྱི་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>92</sup> ལྷགས་སོ་ ] DPNCHSLPh T ; ལྷགས་ཏི་ U

【試訳】 インドラ天シャクラが、かの七度の生について尋ねた瞬間、世尊により仏頂（uṣṇīṣa）から種々の光線が放たれて、それは普く方角のありとあらゆる国土を照らし、還ってきて世尊の御口に収まった。

### § 5.1 仏頂尊勝という名の陀羅尼

དྲི་ནས་བཅོམ་ལྷན་འདས་ཀྱིས་འཇུག་པ་མཛད་ནས་སྣའི་དབང་པོ་བརྒྱ་བྱེན་ལ་  
འདི་རྣམས་ཅེས་བཀའ་སྤྲུལ་རྟོ།

【試訳】 その時に世尊は微笑し、インドラ天シャクラに次のように告げられた。

ལྷའི་དབང་པོ་གཙུག་རྟེན་<sup>93</sup> རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་(S f.205r)ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་དེ་  
བཞིན་གཤེགས་པས་སྦྱི་བོ་<sup>94</sup> རྣམ་དབང་བསྐྱར་བ། (U f.244v) ངན་འགྲོ་(D  
f.244v)ཐམས་ཅད་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བ་སྦྱིབ་པ་དང་སྦྱུག་བསྐྱེད་པར་སྦྱེ་བ་<sup>95</sup> ཐམས་  
ཅད་འཇིག་པར་བྱེད་པ།ཞེས་ཅན་དུས་ལ་དང་བྱོལ་སོང་གི་<sup>96</sup>སྦྱི་གནས་

<sup>93</sup> རྟེན་ ། DPNCHUSLT ; གཙུག་ Ph  
<sup>94</sup> སྦྱི་བོ་ ། DPNHUSLPhT ; སྦྱི་བོར་ C  
<sup>95</sup> སྦྱི་བ་ ། DPNCHUSLT ; བྱེད་པ་ Ph  
<sup>96</sup> བྱོལ་སོང་གི་ ། DPNCHUSLT ; རྟེན་འགྲོའི་ Ph

དང་གཤམ་མེད་འཇིག་རྟེན་ཐམས་ཅད་ཡོངས་སུ་སྦྱོང་བ<sup>97</sup>། བདེ་འགྲོའི་ལམ་དུ་  
<sup>98</sup>འཇོག་པ་<sup>99</sup>ཡོད་དེ།

【試訳】 「インドラ天よ、“仏頂尊勝と名づける陀羅尼”は、如来によって灌頂（mürdhābhiṣikta）されたものであり、一切の悪趣を完全に浄化し、障礙と苦悩、生起の一切を消滅せしめ、地獄（naraka）と畜生と閻魔界の一切を完全に浄化し、善趣の道に安立するものである。

ལྷའི་དབང་(L f.198v)པོ་དེ་ལྟ་བུས་ན་གཞུག་ཏེ་<sup>100</sup>རྣམ་པར་རྒྱལ་བ་ཞེས་བྱ་བའི་  
 གཟུངས་<sup>101</sup>ངན་འགོ་ཐམས་ཅད་ཡོངས་སུ་(Ph f.225v) སྦྱོང་བ་ཐོས་མ་ཐག་ཏུ་  
 སྦྱོབ་པར་འགྱུར་བའི་<sup>102</sup>སྤྲུག་བསྐྱེད་གྱི་རང་བཞིན་སྣ་ཚོགས་ཚོ་རྗེ་བ་<sup>103</sup>ཤིན་ཏུ་མང་  
 པོ་<sup>104</sup>འཇིགས་པར་<sup>105</sup>བྱེད་དོ་<sup>106</sup>། སྦྱོབ་པོ་ཡོངས་སུ་དག་པའི་རྒྱུད་ཐོབ་པར་<sup>107</sup>འགྱུར་

<sup>97</sup> སྦྱོང་བ་ ] DNCHUSLT ; སྦྱོང་བ་དང་ P ; སྦྱོང་བའི་ Ph

<sup>98</sup> འགྲོའི་ལམ་དུ་ ] DPNHUSL Ph T ; འགོ་ལ་ C

<sup>99</sup> འཇོག་པ་ ] DPNCHUSLT ; འཇུག་པ་ Ph

<sup>100</sup> ཏེ་ ] DPNCHUSLT ; གཏོར་ Ph

<sup>101</sup> ཞེས་བྱ་བའི་གཟུངས་ ] DPNCHUSLT ; n.e. Ph

<sup>102</sup> འགྱུར་བའི་ ] DPNCHUSLT ; གྱུར་བ་དང་ Ph

<sup>103</sup> ཚོ་རྗེ་བ་ (Skt.janmaparivartam?) ] Ph ; n.e. DPNCHULT ; ཚོ་བརྗེ་བ་ S

<sup>104</sup> མང་པོ་ ] DPNCHUSLT ; མང་པོ་དག་ Ph

<sup>105</sup> འཇིགས་པར་ ] CL ; འཇིག་པར་ DPNHUS Ph T

<sup>106</sup> བྱེད་དོ་ ] DPNCHUSLT ; བྱེད་བའོ་ Ph

<sup>107</sup> ཐོབ་པར་ ] DNCHUSL Ph T ; ཐོས་པར་ P

རྟོ་ཚེ་རབས་ཐམས་(C f.252v)ཅད་དུ་ཡང་<sup>108</sup>ཚེ་རབས་དྲན་པར་འགྱུར་རྟོ་སངས་  
 རྒྱས་ཀྱི་འཛིན་ནས་སངས་རྒྱས་ཀྱི་<sup>109</sup>འཛིན་དུ་འགྲོ་བར་འགྱུར་རྟོ་སྣའི་འཛིག་རྟེན་ནས་  
 ལྷའི་འཛིག་རྟེན་དུ་འགྲོ་བར་འགྱུར་ཏེ་སྣའི་གནས་སུ་མ་ཅུ་ཙ་གཉིས་ཀྱི་<sup>110</sup>བར་དུ་  
 འགྲོ་བར་འགྱུར་རོ།

【試訳】 インドラ天よ、それ故に一切悪趣を浄化する仏頂尊勝と名づける陀羅尼を聞いた瞬間、障礙となる多様な苦悩を、時を変化させ、よく消滅せしめるのである。生において完全に清浄なる連鎖を得るであろう。あらゆる生において宿命通 (jāṭismara) となるであろう。仏国土 (buddhakṣetra) から仏国土に趣くであろう。天界 (devaloka) から天界に趣くであろう。三十二天処にまで趣くであろう。

སྣའི་དབང་པོ་དེ་བཙུན་མ་ཐག་ཏུ་ཚེ་ཟད་པ་ཡང་<sup>111</sup>ཚེ་ཕྱིར་(P f.228r)ལྷུར་བར་(H f.213v)(N f.190v)འགྱུར་བའི་<sup>112</sup>ལས་ཐོབ་པར་འགྱུར་རྟོ་སྣའི་དང་ངག་དང་ཡིད་  
 ཀྱི་ལས་ཡོངས་སུ་དག་པ་བསགས་པ་<sup>113</sup>བདེ་བར་རེག་པ་ལ་གནས་པས་གནས་པར་  
 འགྱུར་རོ།

<sup>108</sup> ཡང་ 』 DPNCHULT ; འང་ S ; n.e. Ph

<sup>109</sup> ཀྱི་ 』 DNCHUSL Ph ; n.e. P

<sup>110</sup> གཉིས་ཀྱི་ (Skt.dvātrīṃśad) 』 DPNCHULT ; གསུམ་ཀྱི་ S ; གསུམ་ཀྱི་ Ph

<sup>111</sup> ཟད་པ་ཡང་ 』 DPNCHULT ; ཟད་པའི་མི་འང་ S ; ཟད་པའི་མི་ Ph

<sup>112</sup> འགྱུར་བའི་ 』 DPNCHUSLT ; འགྱུར་ Ph

<sup>113</sup> དག་པ་བསགས་པ་ 』 DPNCHULT ; དག་པ་ཡོངས་སུ་བསགས་པ་ S ;  
 བརྟམས་པ་ Ph

【試訳】 インドラ天子よ、彼が（陀羅尼を）唱えた瞬間、寿命が尽きようとも、再び寿命をもたらす業を獲得するであろう。身と口と心の業を完全に浄化することを積集し、安楽となるところによって安住するであろう。

།དེ་བཞིན་གཤེགས་པ་ཐམས་ཅད་ཀྱང་དེ་ལ་གཟིགས་སོ། །དག་<sup>114</sup>དེ་ལ་རྟལ་ཏུ་  
 རྒྱན་མི་འཚད་པར་བསྐྱབ་བ་<sup>115</sup>དང་བསྐྱབ་པ་དང་སྐྱབ་བར་<sup>116</sup>མཛད་པར་འགྱུར་  
 རོ། །བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའ་ཐམས་ཅད་ཀྱང་དེ་ལ་སེམས་(T f.197r)པར་(S  
 f.205v)འགྱུར་རོ།

【試訳】 一切如来はまさに彼（陀羅尼の読誦者）を見守っている。かれら（一切如来）は、彼を絶え間なく守護し、保護し、隠身をなすであろう。一切の菩薩もまた彼を護念するであろう。

བཛོད་པ་ཙམ་གྱིས་སེམས་ཅན་དམྱལ་བ་དང་དྲུང་འགྲོའི་སྐྱེ་གནས་དང་གཤིན་རྗེའི་  
 འཛིག་རྟེན་དང་ཡི་དགས་<sup>117</sup>ཀྱི་ཡུལ་ཐམས་ཅད་སྐླེམས་པར་<sup>118</sup>འགྱུར་རྒྱམ་པར་  
 འཛིག་པར་འགྱུར་རྒྱམ་པར་འཛོལ་བར་<sup>119</sup>འགྱུར་རྒྱམ་པར་སེལ་བར་

<sup>114</sup> དེ་དག་ 』 DPNCHUL ; དེ་དག་གྱང་ S Ph ; དེ་དག་ལ་ T

<sup>115</sup> བསྐྱབ་བ་ 』 DPNCUSL Ph T ; སྐྱབ་བ་ H

<sup>116</sup> སྐྱབ་བར་ 』 DPNCHUSL Ph ; སྐྱབ་བ་ T

<sup>117</sup> དགས་ 』 DPNCUSL Ph T ; དུགས་ H

<sup>118</sup> སྐླེམས་པར་ 』 DPNCUS Ph LT ; སྐླེམ་པར་ H

<sup>119</sup> རྒྱམ་པར་འཛིག་པར་འགྱུར་རྒྱམ་པར་འཛོལ་བར་ 』 DPNCHUST ;  
 རྒྱམ་པར་འཛིགས་པར་འགྱུར་རྒྱམ་པར་འཛོལ་བར་ L ; རྒྱམ་པར་ཐར་བར་ Ph

<sup>120</sup>འགྲུབ་སྒྲོངས་པར་<sup>121</sup>འགྲུར་རྟོ་དེ་ལྟར་དེ་ལ་<sup>122</sup>སངས་རྒྱལ་གྱི་ཞིང་ཐམས་ཅད་  
དང་།སྒྲིའི་གནས་ཐམས་ཅད་དང་།བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའི་གནས་ཐམས་ཅད་གྱི་སྒོ་  
ནམས་ཕྱེ་བར་འགྲུར་རྟོ་དེ་<sup>123</sup>གང་འདོད་པ་དེར་འཇུག་པར་འགྲུར་རྟོ།

【試訳】（陀羅尼が）読誦されただけで、地獄と畜生と閻魔界と餓鬼界の一切を枯渇させ、あまねく破壊させ、あまねく消散させ、あまねく消滅させ、皆無になるであろう。同様に彼において一切の仏国土と、一切の天の住処と、一切の菩薩の住処への諸門が開かれるであろう。彼が望むところに入れるであろう」。

§ 5.2 仏頂尊勝陀羅尼を説くことの要請

དེ་ནས་བཅོམ་ལྷན་འདས་ལ་སྒྲིའི་<sup>124</sup>དབང་པོ་བརྒྱ་བྱིན་གྱིས་འདི་སྐད་ཅེས་གསོལ་  
རྟོ་བཅོམ་ལྷན་འདས་(L f.199r)གཟུངས་དེ་བཀའ་(Ph f.226r) ལྷལ་དུ་  
གསོལ་སེམས་ཅན་ཐམས་(D f.245r)ཅད་ (U f.245r) གྱི་སྒོ་གལ་སྤྲོན་གདགས་པ་  
<sup>125</sup>བཤད་དུ་<sup>126</sup>གསོལ།

---

<sup>120</sup> སེམས་པར་ 』 DPNCHUSLT ; ལྷལ་བར་ Ph  
<sup>121</sup> སྒྲོངས་པར་ 』 DPNHUSLT ; སྒྲོང་པར་ C Ph  
<sup>122</sup> དེ་ལྟར་དེ་ལ་ 』 DPNCHUSLT ; དེ་དེ་ལྟར་ Ph  
<sup>123</sup> རྟོ་ 』 DNCHUSL Ph T ; ད་ P  
<sup>124</sup> ལྷལ་ 』 DPNCHUSLT ; ལྷ་ནམས་གྱི་ Ph  
<sup>125</sup> གདགས་པར་ 』 NL Ph T ; གདགས་པ་ DPCHUS  
<sup>126</sup> བཤད་དུ་ 』 DPNCHULT ; མཛད་དུ་ S Ph



ྱ་བ་ར་བ་ཙན་<sup>139</sup>ཨ་མྱི་ཏ་ཨ་མྱི་ཤེ་གེར་<sup>140</sup>མ་རྩ་ལྷ་རྩ་<sup>141</sup>མ་རྩ་<sup>142</sup>པ་དེམ་ཨྱ་ཏ་ར་ཨྱ་  
 ཏ་ར་<sup>143</sup>མ་མ་ཨྱ་ལྷ་<sup>144</sup>སན་རྩ་ར་ཅི་<sup>145</sup>ཤོ་རྩ་ཡ་ཤོ་རྩ་ཡའི་ཤོ་རྩ་ཡའག་ག་  
 བ་སྣ་རྩ་བ་<sup>146</sup>བི་ཤུད་རྩེ་<sup>147</sup>ཨྱ་རྩེ་པ་བི་ཇ་ཡ་བ་རི་ཤུད་རྩེ་<sup>148</sup>མ་ཏ་སྣ་ར་མྱི་སློ་ཙན་དེ་  
 ཏེ་<sup>149</sup>མ་ཙ་<sup>150</sup>ཏ་སྣ་ག་ཏ་<sup>151</sup>ཨ་བ་ལོ་གེ་མི་(P f.228 v)པ་ར་སྣ་ར་མི་རྩ་<sup>152</sup>པ་རི་རྩ་ར་  
 ཅི་<sup>153</sup>མ་ཙ་<sup>154</sup>ཏ་(S f.206r)སྣ་ག་ཏ་མ་ཏེ་<sup>155</sup>ད་ཤ་རྩུ་མི་པ་ཏི་ཤེ་ཏེ་མ་ཙ་<sup>156</sup>ཏ་སྣ་ག་

<sup>135</sup> n.e. || DCHUSLT; ཨྱ་རྩེ་བི་ཇ་ཡ་བ་རི་ཤུད་རྩེ། P  
<sup>136</sup> ཨ་མྱི་ཤེ་རྩུ་རྩུ། DPNCHUT; ཨ་མྱི་ཤེ་རྩུ་རྩུ། S; ཨ་བི་ཤེ་རྩུ་རྩུ། L  
<sup>137</sup> མྱི། DPCUT; མྱི། NHSL  
<sup>138</sup> མ་ཏ་སྣ་ག་ཏ། DPCU; མ་རྩ་ཏ་སྣ་ག་རྩུ། NHSL; མ་རྩ་ཏ་སྣ་ག་རྩུ། T  
<sup>139</sup> བ་ཙན། NHSLT; བ་ཙན། DPCU  
<sup>140</sup> ཨ་མྱི་ཤེ་གེར། DCHUSLT; ཨ་བི་ཤེ་གེར། P  
<sup>141</sup> ལྷ་རྩ། C; ལྷ་རྩ། DPNHUSLT  
<sup>142</sup> མ་རྩ། DNHUSLT; མན་ཏ། PC  
<sup>143</sup> ཨྱ་ཏ་ར་ཨྱ་ཏ་ར། DPNHUSLT; ཨ་ཏ་ར་ཨ་ཏ་ར། C  
<sup>144</sup> མ་མ་ཨྱ་ལྷ། DNCHUSLT; མ་མ་ཨ་ལྷ། P; མ་མ་ཨྱ་ལྷ། T  
<sup>145</sup> མན་རྩ་ར་ཅི། DNCHUSL; མན་རྩ་ར་ཅི། P  
<sup>146</sup> ག་ག་ན་སྣ་རྩ་བ། DNHUSLT; ག་ག་ན་སྣ་རྩ་བ། PC  
<sup>147</sup> བི་ཤུད་རྩེ། DPCU; བི་ཤུད་རྩེ། NHSLT  
<sup>148</sup> པ་རི་ཤུད་རྩེ། DPCU; པ་རི་ཤུད་རྩེ། NHSLT  
<sup>149</sup> སློ་ཙན་དེ། PNCHSLT; སློ་ཙན་དེ། DU  
<sup>150</sup> མ་ཙ། DPCU; མ་རྩ། NHSLT  
<sup>151</sup> ཏ་སྣ་ག་ཏ། DNCHUSLT; ཏ་སྣ་ག་རྩུ། P  
<sup>152</sup> པ་ར་སྣ་ར་མི་རྩ། DPCULT; པ་རྩ་ར་མི་རྩ། NHS  
<sup>153</sup> ལྷ་རྩ་ཅི། DNCHUSL; ལྷ་རྩ་ཅི། P; ལྷ་རྩ་ཅི། T  
<sup>154</sup> མ་ཙ། DPCU; མ་རྩ། NHSLT



ར་སྐྱ་ར་སྐྱ་ར་ཡ་སྐྱ་ར་ཡ་ས་མ་མ་<sup>175</sup> བྱང་རྩེ་<sup>176</sup> ཨ་རྩེ་རྩེ་ལ་ཨ་རྩེ་རྩེ་ཏེ། བྱང་རྩེ་བྱང་  
 རྩེ་<sup>177</sup> བྱང་རྩེ་བྱང་རྩེ་<sup>178</sup> །བ་རྩོ་བ་རྩོ་མ་རྩོ་བ་རྩོ་ལྷ་བ་རྩོ་བ་རྩོ་<sup>179</sup> ག་རྩེ་<sup>180</sup> །རྩོ་ཡ་ག་  
 རྩེ་<sup>181</sup> །བེ་རྩོ་(L f.199v) ཡ་ག་རྩེ་<sup>182</sup> །བ་རྩོ་རྩོ་ལ་<sup>183</sup> ག་རྩེ་<sup>184</sup> །བ་རྩོ་བྱང་ན་བེ་བ་རྩོ་<sup>185</sup> (N  
 f.191v) སྐྱ་བེ་བེ་བེ་བ་རྩོ་ཏེ་<sup>186</sup> །བ་རྩོ་སྐྱ་བ་བྱ་<sup>187</sup> །མ་མ་ག་རྩོ་རྩོ་<sup>188</sup> ས་མ་ས་རྩོ་རྩོ་  
<sup>189</sup> ག་ཡ་<sup>190</sup> བ་རྩོ་(H f.214v) བྱང་རྩེ་རྩོ་<sup>191</sup> རྩོ་བ་བྱ་<sup>192</sup> །ས་རྩོ་<sup>193</sup> མེ་ས་མ་<sup>194</sup> ག་ཏེ་བ་

- <sup>174</sup> བྱང་རྩེ་ 〕 DCU ; བྱང་རྩེ་ P ; བྱ་རྩེ་ NHSLT  
<sup>175</sup> མ་མ་ 〕 DPCU ; མ་རྩོ་ NHSLT  
<sup>176</sup> བྱང་རྩེ་ 〕 DPCU ; བྱ་རྩེ་ NHSLT  
<sup>177</sup> བྱང་རྩེ་བྱང་རྩེ་ 〕 DPCU ; བྱ་རྩེ་བྱ་རྩེ་ NHSLT  
<sup>178</sup> བྱང་རྩེ་བྱང་རྩེ་ 〕 DPCU ; བྱ་རྩེ་བྱ་རྩེ་ NHSLT  
<sup>179</sup> བ་རྩོ་ 〕 HSLT ; བ་རྩོ་ DPNCU  
<sup>180</sup> ག་རྩེ་ 〕 DNHUSL ; ག་རྩོ་ PC  
<sup>181</sup> ག་རྩེ་ 〕 DNHUSL ; ག་རྩོ་ PC  
<sup>182</sup> ག་རྩེ་ 〕 DNCHUSLT ; ག་རྩོ་ P  
<sup>183</sup> རྩོ་ཡ་ 〕 DPCHU ; རྩོ་ལ་ NS ; རྩོ་ལ་ LT  
<sup>184</sup> ག་རྩེ་ 〕 DNCHUSLT ; ག་རྩོ་ P  
<sup>185</sup> བ་རྩོ་ 〕 DPNCHUSL ; བ་རྩོ་ T  
<sup>186</sup> བ་རྩོ་ཏེ་ 〕 DPC ; བ་རྩོ་ཏེ་ HUT ; བ་རྩོ་ཏེ་ NSL  
<sup>187</sup> བ་རྩོ་སྐྱ་བ་བྱ་ 〕 DPNCUSLT ; བ་རྩོ་སྐྱ་བ་བྱ་ H  
<sup>188</sup> ག་རྩོ་རྩོ་ 〕 DCU ; ག་རྩོ་རྩོ་ P ; ག་རྩོ་རྩོ་ NHSLT ; ག་རྩོ་རྩོ་ T  
<sup>189</sup> ས་རྩོ་རྩོ་ 〕 DNHUT ; ས་རྩོ་རྩོ་ P ; ས་རྩོ་རྩོ་ C ; ས་རྩོ་རྩོ་ S ;  
 ས་རྩོ་རྩོ་ L  
<sup>190</sup> ག་ཡ་ 〕 DNCHUSLT ; ག་ཡ་ P  
<sup>191</sup> བ་རྩོ་བྱང་རྩེ་ 〕 DPCU ; བ་རྩོ་བྱ་རྩེ་ NHSLT  
<sup>192</sup> རྩོ་བ་བྱ་ 〕 DPNUSLT ; རྩོ་བ་བྱ་ C ; རྩོ་བ་བྱ་ H

རི་བྱང་རྩེ་ཕྱོ་<sup>195</sup> 196 །ས་རྩ་<sup>197</sup> ཏ་ཐ་ག་ཏུ་ཕུ་ལྷོ་<sup>198</sup> ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་རྩུ་<sup>199</sup> །བྱང་བྱ་བྱང་  
 བྱ་<sup>200</sup> །སིང་བྱ་སིང་བྱ་<sup>201</sup> །བོ་རྩ་ཡ་བོ་རྩ་ཡ་བོ་རྩ་ཡ་བོ་རྩ་ཡ་མོ་ཙམ་ཙམ་ཡ་བོ་  
 མོ་ཙམ་ཡ་བོ་མོ་ཙམ་ཡ་ཤོ་རྩ་ཡ་ཤོ་རྩ་ཡ་བོ་ཤོ་རྩ་ཡ་བོ་ཤོ་རྩ་ཡ་ས་མ་རྩུ་<sup>202</sup> ར་མྱི་བ་རི་  
 བྱང་རྩེ་<sup>203</sup> །ས་རྩ་<sup>204</sup> ཏ་ཐ་ག་ཏུ་<sup>205</sup> ཉི་དེ་ཡ་ཨ་རྩེ་རྩུ་ན་ཨ་རྩེ་ལྷོ་ཉི་<sup>206</sup> །ལྷ་ཏེ་ལྷ་ཏེ། (U  
 f.245v)མ་དུ་ལྷ་ཏེ་མ་དུ་ལྷ་ཏེ་མ་རྩུ་<sup>207</sup> བ་དེེ་<sup>208</sup> སྤྲ་དུ།

193 ས་དུ་ ] DNCHUSLT ; ས་ད་ P  
 194 ས་རྩ་ ] DPCU ; ས་རྩུ་ NHSLT  
 195 རི་བྱང་རྩེ་ཕྱོ་ ] DPCUS ; རི་བྱང་རྩེ་ཕྱོ་ NHL ; རི་བྱང་རྩེ་ཕྱོ་ T  
 196 n.e. ] NHSLT ; ས་མ་རྩུ་ན་མོ་ཙམ་མོ་ཙམ་ཡ་ཨ་རྩེ་རྩུ་ན། DCU ;  
 ས་རྩ་ཏ་ཐ་ག་ཏུ་ས་མ་ཡ་ཨ་རྩེ་རྩུ་ན་ཨ་རྩེ་ལྷོ་ཉི། P  
 197 ས་རྩ་ ] DPCU ; ས་རྩུ་ NHSLT  
 198 ལྷོ་ ] DPNCHULT ; ལྷོ་ S  
 199 ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་རྩུ་ ] D ; ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་རྩུ་ P ; ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་ན་ཏུ་ C ;  
 ས་མ་ལྷ་ས་ཡ་རྩུ་ NHL ; ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་རྩུ་ U ; ས་ལྷ་སྤྲ་ས་ཡ་རྩུ་ ST  
 200 བྱང་བྱ་བྱང་བྱ་ ] DPCU ; བྱ་རྩེ་བྱ་རྩེ་ NHSL ; བྱ་རྩུ་བྱ་རྩུ་ T  
 201 སིང་བྱ་སིང་བྱ་ ] DPCU ; སི་བྱ་སི་བྱ་ NHSLT  
 202 ས་མ་རྩུ་ ] DU ; ས་མན་ཏུ་ PC ; ས་མ་རྩུ་མོ་ཙམ་མོ་ཙམ་ཡ་ས་མ་རྩུ་ H ;  
 ས་མན་ཏུ་ན་མོ་ཙམ་མོ་ཙམ་ཡ་ས་མ་རྩུ་ NSLT  
 203 རི་བྱང་རྩེ་ ] DPCU ; རི་བྱང་རྩེ་ NHSLT  
 204 ས་རྩ་ ] DPCU ; ས་རྩུ་ NHSLT  
 205 ཏ་ཐ་ག་ཏུ་ ] DU ; ཏ་ཐ་ག་ཏུ་ PNCHSLT  
 206 ཨ་རྩེ་ལྷོ་ཉི་ ] DPNCHUS ; ཨ་རྩེ་ལྷོ་ཉི་ L ; ཨ་རྩེ་རྩུ་ཉི་ T  
 207 མ་རྩུ་ ] DNHUSLT ; མན་ཏུ་ PC  
 208 བ་དེེ་ ] DNCHUSLT ; བ་དེ་ P

【還梵】※チベットの音写語には誤謬・転訛も含まれることから、最低限、適切なサンスクリット語に修正して還梵した（以下 Phug-Brag の還梵も同じ）。

Namo ratnatrayāya, Oṃ namo bhagavate sarvatrailokyaprativiśiṣṭāya  
buddhāya te namaḥ, tadyathā, Oṃ bhrūṃ bhrūṃ bhrūṃ, śodhaya  
śodhaya, viśodhaya viśodhaya, asamasamantāvabhāsaspharaṇagati-  
gaganasvabhāvaviśuddhe, abhiṣiñcatu mām,  
sarvatathāgatasugatavaravacana, amṛtābhiṣekair,  
mahāmudrāmantrapadaīḥ, āhara āhara, mama āyuhśandhāraṇi, śodhaya  
śodhaya, viśodhaya viśodhaya, gaganasvabhāvaviśuddhe,  
uṣṇīṣavijayapariśuddhe, sahasraraśmisamcodite, sarvatathāgatāvarokini,  
ṣaṭpāramitāparipūraṇi, sarvatathāgatamate daśabhūmipraṭiṣṭhite,  
sarvatathāgatahrdayādhiṣṭhānādhiṣṭhite, mudre mudre, mahāmudre,  
vajrakāyasamhātana, pariśuddhe, sarvakarmāvaraṇaviśuddhe,  
pratinivartaya, mamāyurviśuddhe,  
sarvatathāgatasamayādhiṣṭhānādhiṣṭhite, Oṃ muni muni, mahāmuni,  
vimuni vimuni, mahāvimuni, mati mati, mahāmati, mamati, sumati,  
tathatābhūtakoṭipariśuddhe, visphuṭa, buddhe śuddhe, he he, jaya jaya,  
vijaya vijaya, smara smara, sphara sphara, sphāraya sphāraya,  
sarvabuddhādhiṣṭhānādhiṣṭhite, śuddhe śuddhe, buddhe buddhe, vajre  
vajre, mahāvajre, suvajre, vajragarbhe, jayagarbhe, vijayagarbhe,  
vajrajvālagarbhe, vajrodbhave, vajrasamḥhave, vajre vajriṇi,  
vajrambhavatu, mama śārīraṃ sarvasatvānām ca kāyapariśuddhir  
bhavatu, sadā me sarvagatipariśuddheś ca, (N H S L T ; samāntāna



【還梵】

Namo ratnatrayāya, Namobhagavate, Namaḥ trailokyaprativiśiṣṭāya  
buddhabhagavate, tadyathā, Oṃ viśodhaya,  
asamasamantāvabhāsaṣṭaraṇagatigaganasvabhāvaśuddhe,  
abhiśiñcatu māṃ, sugatavaravacana, amṛtabhiṣekair,  
mahāmantrapadaih, āhara āhara, āyuhṣandhāraṇi, śodhaya śodhaya,  
gaganaviśuddhe, uṣṇīṣavijayapariśuddhe, sahasraraśmisaṃcodite,  
sarvatathāgatahrdayādhiṣṭhānādhiṣṭhite, mahāmudre,  
vajrakāyaśaṃhatana, śuddhe sarvakarmāvaraṇaviśuddhe, pratinivartaya,  
āyurviśuddhe, samayādhiṣṭhānādhiṣṭhite, mani mani, mamani,  
mahāmani, tathābhūtakotīpariśuddhe, viśphuṭa, buddhe śuddhe, he he,  
jaya jaya, vijaya, smara smara, sarvabuddhādhiṣṭhānāddhiṣṭhite, śuddhe,  
vajre vajre, mahāvajre, vajragarbhe, vajrambhavatu, mahāśarīraṃ  
sarvasatvānāṃ ca kāyapariśuddheś ca bhavatu, me sarvagatīpariśuddhe,  
sarvatathāgatabuddhakotīpariśuddhe, sarvatathāgatasamāśvāsādhiṣṭhite,  
sarvatathāgatāś ca māṃ samāśvāsayantu, buddhya buddhya,  
bodhaya bodhaya, samantaraśmīpariśuddhe,  
sarvatathāgatahrdayādhiṣṭhānādhiṣṭhite, mudre mudre, svāhā //

〈キーワード〉 『仏頂尊勝陀羅尼經』、チベット訳、校合テキスト、善住天子